

令和4年度全国学力・学習状況調査における集計結果のお知らせ

4月19日に実施された6年生の全国学力・学習状況調査についての結果をまとめましたのでお知らせいたします。個人の結果を示す個人票につきましては、すでに6年生に配付しておりますので、データに基づいた調査結果について、本校の概要をお知らせします。なお、学校では調査結果で見えてきた課題について検討し、今後の児童の指導へと生かしていきたいと存じます。

調査は、国語、算数、理科の3教科と学習習慣・生活習慣に関して調査いたしました。

《教科に関する調査結果》

◎調査結果から見る本校の特徴

国語、算数、理科のいずれの教科においても、全国の平均正答率に比べ、やや下回る結果となりました。

【平均正答率(%)】

	国語	算数	理科
本校	59	59	58
全国との差	-6.6	-4.2	-5.3
全国	65.6	63.2	63.3

【各教科における領域等の正答率】

教科	領域等	本校	全国(公立)
国語	話すこと・聞くこと	62.6	66.2
	書くこと	42.7	48.5
	読むこと	62.7	66.6
	言葉の特徴や使い方に関する事項	58.5	69.0
算数	数と計算	67.0	69.8
	図形	59.1	64.0
	変化と関係	47.7	51.3
	データの活用	61.8	68.7
理科	「エネルギー」を柱とする領域	50.5	51.6
	「粒子」を柱とする領域	54.2	60.4
	「生命」を柱とする領域	71.3	75.0
	「地球」を柱とする領域	53.5	64.6

◎調査結果から見て特徴のある設問

全国の平均正答率との差が7ポイント以上あった主な設問は、次のとおりです。(ポイントは整数値)

国語

- ・「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」設問が7ポイント低い。
- ・「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」設問が13.7ポイント低い。
- ・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」設問が7ポイント低い。

算数

- ・「二つの数の最小公倍数を求める」設問が8.6ポイント低い。

- ・「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察」する設問で7.5ポイント高い。
- ・「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」設問が7.7ポイント低い。
- ・「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述」する設問が9.5ポイント低い。

理科

- ・「観察などで得た結果を他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」設問が9.12ポイント低い。
- ・「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述」する設問で10.2ポイント低い。
- ・「日光は直進することを理解」する設問で8.6ポイント高い。

◎調査結果の考察と今後の課題と取組

◆国語

- 漢字を正しく書いたり、漢字や仮名、配列に気をつけて書いたりするといった、言語知識に関する正答率が低かったことから、引き続き文字や文章表記などは、国語のみならず、学習活動全般を通して指導していくことで、身に付けられるように取り組んでいく。
- 「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え」たり「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉え」たりする問題は正答率が高かったことから、他の人の話している内容や文章の叙述を自分なりに解釈して捉える力は育っていることがうかがえる。会話や文章を情報としてインプットし、その情報を整理分析しながら自分が伝えたいことを構成して発言や文章などにアウトプットしていく言語活動を学習の中に多く取り入れることで、思考力を高められるようにしていく。また、自分とは違う考えも受け入れながら、よりよい考えを生み出していこうとする態度を養いたい。

◆算数

- 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のどの分野においても、全国平均を下回っている。基礎的な学習内容の定着に課題があることから、少人数指導の中で個に応じた支援をしながら定着を図っていく。
- 計算の答えの見積もり方を考えたり、分類整理されたデータをもとに目的に応じてデータの特徴を捉えて考察したりする設問の正答率が高かったことから、思考力や考察力が身に付いていることが分かる。今後も、学習場面でただ答えを導き出すだけでなく、既習事項をもとに根拠をもって考えたり、情報を整理分析しながら考察したりする、思考を伴った活動を取り入れ、身に付いた能力を発揮できるようにしていく。

◆理科

- 「観察において問題を解決するまでの道筋を構想」したり、「自分で発想した予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して改善したりして、自分の考えをもつ」という設問では正答率が高かった。そこで、実際に体験する活動を多く取り入れることで、解決までの見通しをもって問題解決に取り組む経験を増やし、育っている資質・能力をより高められるようにしていきたい。
- 一方で、「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」や「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」という設問の正答率が低かったことから、自分の考えを友達の考えと比較したり、結び付けたりしながらもてるように、実験や観察結果を友達と交流する学習活動を取り入れていく必要がある。

《生活習慣・学習習慣について》 ※数値は、肯定の回答率（％）

特徴的な項目	本校	全国
自分には、よいところがあると思いますか。	▼35.7	39.4
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	△46.4	46.3
将来の夢や目標を持っていますか。	▼26.8	38.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	▼26.8	38.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	▼66.1	75.1
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	△28.6	27.5
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用してきましたか。	△58.9	26.7
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使っていますか。	△25.0	14.3
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	△73.2	65.5
国語の勉強は好きですか。	▼12.5	23.4
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。	△66.1	65.5
算数の勉強は好きですか。	▼35.7	36.2
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。	△76.8	74.7
理科の勉強は好きですか。	△53.6	49.3
理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか	△48.2	45.5

◆質問紙調査結果から、特徴的な項目について全国平均と本校を比べて

- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもつ」といった、項目で「そう思う」と答えた児童の割合が低く、成功体験を多く積むことで、自己肯定感を高めていく必要がある。
- ・昨年度タブレットを積極的に活用してきたことで、子どもたちの中に「タブレットは学習の役に立つ」「分からないことはタブレットを使って調べよう」という意識が育っている。
- ・学習に対して「好き」と答える児童の割合は低いが、「学習内容が将来社会に出たときに役に立つ」と考えている児童が多いことが分かる。このことから、「学習することは大切」と感じながらもなかなか学習への意欲につなげられていない現状が見て取れる。
- ・こうした調査結果を受けて、今後、中学進学に向けて、学習内容の確実な定着を図るとともに、学習に対する前向きな意識、自尊感情や協力性を学校生活を通して高めていけるよう推し進めることで、よりよい社会人としての資質・能力を形成できるようにしていくことが大切であると考えられる。